

主催者挨拶

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長

山内章

(山内) 皆様、こんにちは。名古屋大学農学国際教育協力研究センターのセンター長をしております山内と申します。主催者を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。本日は大変お忙しい中、遠路はるばるこのフォーラムのためにおいでいただきました話題提供者の先生方、またご一緒に来ていただいております事務の職員の方々、誠にありがとうございました。それからご来賓といたしましては、名古屋大学の方から、副総長で研究・国際交流関係担当理事の山本先生にきていただいております。お忙しいところおいでいただきありがとうございました。

現在大学に求められている課題というものは非常に多岐にわたっているわけですが、その中で、社会貢献、特に国際協力を含めた社会貢献に対して、この国の政策あるいは社会の要請、また大学の中の内発的な要請というものが非常に高まっているという現状がございます。一方その大学の国際協力研究あるいは教育における体制の整備が極めて遅れており、その体制整備そのものが今日の重要課題になっているという認識を持っております。

そこで教育協力の分野でこれまで先導的な役割を果たしてこられました、帯広畜産大学、筑波大学、京都大学、九州大学の先生方、あるいは、国際協力や交流をご担当しておられる職員の方々に、さらには文部科学省、政策研究大学院大学、JICA、JBIC、から大学との連携協力を担当されている責任者の方々にお集まりいただきまして、大学がこれから一層国際協力事業に参画するための条件づくりについて議論するために、今回のオープンフォーラムを企画いたしました。皆様方におかれましては、非常にお忙しいことを重々承知の上の我々からの参加要請ではありましたが、快くお引き受け下さいまして、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

私達の農国センターは、農学領域の開発問題につきまして、人づくり協力をリードするセンターを目指しまして文部科学省のご指導の下に、1999年4月名古屋大学に設置され、今年で9年目を迎えております。設立以来、農学分野の国際教育協力に関係する国内外の大学あるいは国際協力機関との連携強化を、当センターの最重要ミッションの一つと位置づけて活動してきており、本日の本フォーラムの企画に至っております。

私が今さら申し上げるまでもございませんが、現在大学は実に多方面の活動とその成果を求められています。多くの教員は、研究がたくて大学に応募して職を得ております。また特に最近では教育面の成果も非常に強く求められています。たとえばこのフォーラムが終わった今週の後半には、評価チームをお迎えいたしまして、名古屋大学は、とくに教育面を中心に認証評価をしていただくことになっております。また、私どものセンターの教員が協力講座として参加いたしております大学院生命農学研究科の方では、今年の文科省のグローバル COE に採択していただきましたけれども、中でも大学院教育強化が一番重要な課題になっております。それから冒頭申し上げましたように、社会貢献の中で、特に

大学にしかできない国際協力のあり方、大学らしい国際協力のあり方を通じて貢献することが求められているわけであります。

一方教員は、研究でも一流の成果を挙げたい、優秀な学生も育てたい、そして国際協力の場面でも貢献したい、だけれども時間がない、資金がない、場合によっては自分の専門以外の領域にわたることも多くて能力も足りない、こう自覚しつつ、もがいております。しかし、このように、ないないづくしではあっても、それぞれの活動やその成果が正当に評価されるような仕組みが十分に確立されてさえいれば、それは大学人にとって大きなインセンティブとなるはずです。その点が十分に確立されていないという現状が、大学が抱える大きな問題点の一つであると私は考えております。

さらには、事業を展開する際にも、さまざまな制度あるいは手続き上の問題点を抱えておりまして、実際の事業実施以外の部分で大きなエネルギーを割かなければならないという現状もあります。特に国際交流事業が、かつては個々の教員の個別の対応に求められていた時代からかわって、大学として、組織として取り組むようになってきてから、この問題は大きく顕在化しております。

この点から申し上げますと、本フォーラムが各大学の事務方からのご参加を得ているということも大変に意義があると考えております。

2日間にわたりまして、本フォーラムが、比較的少人数で行われるという利点を最大限に活かしまして、大学が事業実施上共通に抱えている問題点について、率直な意見を交換して、今後あるべき方向性について、実質的な議論を展開する場となれば、これは主催者にとって望外の喜びであります。2日間どうぞよろしく願いいたします。これをもって主催者の挨拶とさせていただきます。